

会 議 録

1 会議名

令和3年度第9回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

・板倉保養センターの今冬の営業について

○協議事項（公開）

・自主的審議事項について

○その他（公開）

3 開催日時

令和3年12月21日（火）午後6時00分から午後7時10分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：平井達夫（会長）、古川政繁（副会長）、池田光男、小林政弘、
植木節子、手塚哲夫、山本茂、西田節夫、下鳥治、田中睦夫、
庄山健、秋山秀夫、吉田重夫、長藤豊

・事務局：板倉区総合事務所 川瀬所長、高波次長（総務・地域振興
グループ長兼務）、一藁次長、関根産業グループ長、大堀建設グルー
プ長、丸山市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、小
池地域振興班長、成見主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【高波次長】

・会議の開会を宣言

【平井達夫会長】

・挨拶

【川瀬所長】

・挨拶

【平井達夫会長】

4 報告事項、「板倉保養センターの今冬の営業について」事務局から説明を求める。

【関根産業G長】

・資料 1 により説明

【平井達夫会長】

事務局の説明に対して意見のある委員の挙手を求める。

【古川政繁副会長】

コロナ禍で仕方ないと思うが冬期間雪が降るのは当たり前のことであり、疑問に思う。この期間の従業員の補償はどうなのか。あるいは他の区の施設の対応はどうなのか教えていただきたい。

【一藁次長】

冬期間について雪が降るのは当たり前とのことだが、過去 3 年間、平成 29 年、30 年、令和元年の実績によると 4 月から 11 月までの月の平均人数で約 140 人位の宿泊利用があるのに対し、12 月から 3 月までの平均は月 75 人と、約半数の利用客になっている。それから温浴施設の利用客についても半数という程ではないが約 20% の減となっている。これらの事やコロナの影響、更には冬期間ということで経費の節減も兼ねて今回平日の営業を停止させていただく方向で考えている。従業員が休む時の補償ということだが、雇用調整助成金というものがあり、それにより助成することが可能となっている。去年の正規職員については、去年の 1 日あたりの金額は 6 万円程、1 人あたり 1 万円になっている。それから、他の区の施設についてであるが、先ほど話にあったとおり対象施設として出ているのが「くわどり湯ったり村」、「板倉保養センター」、それから「牧湯の里深山荘」で担当課に確認したところ今後も上記の対象温泉施設以外等についても決まり次第公表されると聞いている。

【平井達夫会長】

他にないか。

(意見なし)

5 協議事項、「自主的審議事項について」事務局から説明を求める。

【小池地域振興班長】

・資料2により説明

【平井達夫会長】

本日は地域の課題を各部会からあげていただいたが、板倉区としての自主的審議事項としてどのようなテーマがよいか協議する。それでは今、事務局の方から提案があったように、昨日、地域振興部会で会議をもったということなので座長に報告を求める。

【長藤豊委員】

昨日、板倉まちづくり振興会の理事長、副理事長、部会長、事務局長とテーマ「板倉まちづくり振興会を中心とした地域活性化について」という形で意見交換を行った。多くの話が出たが、一番多かったのは財源を今後どうするか、人材の確保、人材不足といった話が多かった。特に人材の件については若い方、女性の方が必要との事だった。色々な人・団体との話し合いを今後していきたいという話があった。それで部会のテーマとしては「板倉の各種団体と連携した地域振興」ということで審議していきたい。部会の中で話し合うだけではなく、いろいろな人との話し合いの場を持ちたいという話もあったので積極的に進めていきたい。

【平井達夫会長】

産業建設部会、健康福祉部会の方で補足説明があれば座長からの説明を求める。

【田中睦夫委員】

産業建設部会は、意見交換会の報告をすでに行っており、その後活動していないため補足は無い。

【小林政弘委員】

健康福祉部会としてはテーマはここに掲げてある。今後の進め方は事務局と検討中である。

【平井達夫会長】

各座長から補足説明があったが、こういう問題はどうかというものがあれば挙手をお願いする。

【庄山健委員】

有恒高校の問題についてだが、13区の中で高校があるのは板倉区だけであり、存続するよう良い方策を考えた方がよいのではないか。

【平井達夫会長】

以前にも皆さんに経過を説明したが、最初に地域協議会に話があったのは有恒高校の後援会長からである。板倉区総合事務所に、関係者や市議会議員が来所し、「板倉区のことであるから地域協議会も力になって欲しい」と話があった。いろいろ検討され、県の教育長に要望したということで新聞に写真入りで載っていたと思うがこれには地域協議会は関与していない。後援会長の方には「板倉のことであるが、地域協議会は上を見れば上越市である。色々な地域の問題、課題を審議しながら進め、場合によっては市長にも話をもっていく」という話をさせてもらった。当然、庄山委員から話があったように板倉区に高校があるのは事実だが、大きな壁があって中々前に進めないということで皆さんに報告したと思う。

【小林政弘委員】

新聞を私も読んだが、これは総合事務所にも答えてもらいたい。板倉としては関心ごとではあるが、今申し入れをするというスケジュール的にどうなのか、今後の取組みについて把握しているのか聞かせていただきたい。高校の再編整備計画では令和6年度まで有恒高校はそのままだったが、今後の方向で聞いている範囲で教えてもらいたい。

【高波次長】

有恒高校は今、1学級の募集と承知している。県立高校のため県教育委員会の動向ということで今現在事務局で承知している事は無い。

【平井達夫会長】

他にないか。

【庄山健委員】

皆さんが良いと言えば良いが、私としては市の関係する所ではないから審議しなくて良いのか、地域の要望があるにも関わらず審議しないで良いのかどうか、その

辺の答えを知りたい。

【平井達夫会長】

事務局の回答を求める。

【高波次長】

いわゆる地域協議会とすると県に対して物を申すという事ではなく、話しの向きからすると市に対する意見という形でまとめていくという方向感であれば可能だが、存続を県の方にとりというものではないという事でご理解をいただければと思う。

【庄山健委員】

私が言ったのはそうではなく地域協議会として審議しないで良いのか、地域協議会委員の皆さんに聞いている。

【平井達夫会長】

有恒高校の問題は地元の問題であるという事だから皆さんどういう風に考えているかと、そういうことと思う。逆に聞きたいが、それをもってどういう形で進めるという考えを持っているか。改めて聞かせてもらいたい。

【庄山健委員】

今回要望した団体、商工会を含め色々あるが、そういう団体と色々話をしてどうしたら良いか、地域協議会として入って行って話し合う場があっても良いと思う。

【平井達夫会長】

表面に出てイニシアティブを取るのではなく、一つの例として商工会とか農協とか色々あるがオブザーバーみたいな形で助言を与えると、こういう事をやった方が良いのではないかということか。

【庄山委員】

そうである。表面に出るのはPTAとかそういう人達を中心にならざるを得ないと思うが、やはり色々な知恵を出し合って、こういう方法もあるのではないかと提案を出し合って話し合うのが良いと思う。

【平井達夫会長】

皆さん今の庄山委員の意見についてどうか。

【西田節夫委員】

何回か有恒高校について話をさせていただいた。これは県のことだから地域協議会としてやる必要はないという意見が多かったが、有恒高校は板倉区にあるわけで、板倉区全体で話し合いをしていかないと中々市も県も動かない。県の教育長は上越市の副市長までやられた人だ。その人に言われての同窓会、P T A、町内会、連協、それからまちづくり振興会、板倉商工会の皆さんの連名で要望書を出している訳だ。これだけではなくて、区全体で盛り上げていかないと中々県は動かない。皆さんこれは地域協議会で議論する話じゃないということではなくて、区全体で考えてもらわないとならない。何回か地域協議会の中で有恒高校の話はさせてもらっているが全然進んでこない。来年は新井高校と高田商業高校で募集人数が増えるということで、有恒高校は無くすという方向になってしまってからでは間に合わない。本気になって板倉区で盛り上げていかないと中々県は動かない。これから新しい市長になったので新しい市長から力になってもらえないと中々難しい。庄山委員が言われたように皆で議論だけではなく提案をしていったらどうか。

【平井達夫会長】

他にないか。

【小林政弘委員】

非常に存続は厳しい状況だと思うが主体的に動くのは同窓会なり P T Aなりだと思う。そういったきちっとした組織化されている所に地域協議会として提言をした時に取り入れていただけるのかどうか。今の状況だと分からないが、その組織の活動が板倉区全体の機運を盛り上げる様な特色ある高校を目指そうとか目標がないと、ただ残置をさせるだけの運動なのか、それとも特色ある所へ向けてなのか、私の所には情報が全然ない。果たして地域協議会として取り組むべきテーマかどうかというのは、向こうがやはりイニチアチブを取って、その後、私共がそれに乗っていくのが一番いい形ではないかと思う。やはり主体的には関係者、有恒高校の関係者、団体に動いてもらうのが一番だろう。

【平井達夫会長】

他にないか。今、小林委員が話されたことに絡むが、過去に有恒高校の後援会や P T Aの動きが分からない、熱意が感じられないという話があった。まずは本家本元が熱意を持って汗をかくべきではという疑問も一部では感じた。その他何かない

か。

【長藤豊委員】

私は、詳しい事は分からないが、有恒高校の後援会やP T Aから存続への熱意が上がってきてそういった動きが見えてきたら、そこへオブザーバーとして入り込んで色々な話をしていく事はあっても良いと思う。ただ、自主的審議としてこちらで審議をして市に意見書なりを挙げていくとしたら、学校の構成をどうこうするという事は県立高校なので我々は何も言えない。生徒をどういう風にして板倉区に来てもらうとかそういった形の方向であれば少しは考えてみても良いという気はする。

【平井達夫会長】

他にないか。

【庄山健委員】

有恒高校については問題提起させてもらった。もう1つ、地域振興部会で審議されている各団体の連携のあり方について、これは一番大事かなと思う。光ヶ原高原の観光の話をしたときもそうだが、音頭を取ってくれる所がないと。音頭を取ってくれる所があれば私はいくらでも協力するが、音頭を取ってくれる所がないので何もやってみようがないという話があった。だからそういった団体が必要ではないかと思う。

【平井達夫会長】

座長か事務局から何かあるか。

【高波次長】

地域の皆さんがどう板倉を振興していこうかという有り様というものを、お互いそれぞれ思い、意見があるかと思うので、まずは話し合うことが先決だと思う。団体間で誰が音頭を取るかと押し付け合いになると空中分解してしまうので、行政としては後方支援になってしまうが、良い方向に話を持っていけるように場のセッティング等々が出来ればと考えている。その中で、皆さんと話し合いながらこの地域協議会が場を設けて盛り上げていくのも一つの手だと思う。音頭取りを誰がというのは話がずれるかもしれないが、そういう話し合いをしていかない限りは前に進んでいかないと考えている。

【平井達夫会長】

他にないか。

【長藤豊委員】

先ほど、昨日の意見交換の場で、そういう話し合いの場をという話が出たと報告した。例えば今年の板倉まちアートの際に夢創會という会と一緒にやられているが、以前に光ヶ原高原の方で色々行事をやった若手の横の繋がり、それを夢創會という名前でやっているようである。今後話し合いを進めていくと横の繋がりを誰がまとめていこうかという話も出てくると考えられるので、そういった面も含め地域振興部会も色々な話し合いをやっていきたいと思う。

【平井達夫会長】

他にないか。有恒高校の問題は出たが、もう少し時間が必要と思う。ぶり返したような形であるが、地域協議会としては前回、結論を出した状況である。ただ、今日また改めてそういう話が出ているので預かっておく。

【植木節子委員】

会議のあり方だが、以前に吉田委員から質問があった件について、是非事務局から本人だけでなく他の委員にも共有していただきたい。私達も毎回来ているが話が出るが一方通行で、何なのかなというのが疑問点。それが1つと、今日私の町内会長さんから総合事務所のパーティションが細かく仕切ってあって見通しが悪く、閉鎖感があり要件がある方が言いにくいし行きにくいという話があった。コロナの関係だと思うが私の所で話を止めるのも失礼なので話があったことを報告しておく。3点目は皆さんに寺野遊雪まつりの寄付金の件だが私の勤めている会社の社長も手塚委員も寺野の方が皆さん頑張っているの地域協議会として1人千円ずつ寄付しないか。

【平井達夫会長】

植木委員が言われるように寺野地区は頑張っているの、ここにおられる手塚委員もそのメンバー、執行部ということになれば同じ仲間としていま提案のあった千円、皆さんどうか。事務局、最初に言っていた回答をお願いします。

【小池地域振興班長】

今、協議事項、自主的審議事項の話し合いをしていただいているが、今の植木委

員の話はその他の方に移ったと思うので、まずはこの3つのテーマだけ皆さんで決めていただきたい。

【平井達夫会長】

資料2に3つのテーマが出ているが、テーマについてはこれで良いか。平成25年7月の29日に審議が開始した「板倉区の観光振興の明確な方向付けについて」は審議終了とし、改めて、今3つ提案されているものをテーマとしたいということではよろしいか。

(異議なし)

それではそのようにする。今後の進め方について事務局から説明を求める。

【小池地域振興班長】

それでは3つのテーマを決めていただいたので自治・地域振興課に報告させていただく。今後の審議の進め方は部会の座長と相談させていただき部会で方針を決定後、全体会で報告させていただく。

【平井達夫会長】

その他について事務局からあれば報告を求める。

【小池地域振興班長】

次回の地域協議会については1月13日の木曜日に開催したい。内容としては1月6日に開催される地域協議会の会長会議の内容について報告させていただきたい。それから光ヶ原高原の関係の今後の方針も説明させていただきたい。日程について協議をお願いしたい。

【平井達夫会長】

事務局から説明のあった次回の会議は1月13日の木曜日でよいか。

(異議なし)

今回は1月13日に開催する。ここで植木委員の質問に対して事務局の回答を求める。

【高波次長】

今ほどの植木委員の話であるが、吉田委員から話のあったのは第7回10月12日にコロナのおさらい接種について、土日だけではなく平日でもできないかということであった。その際、後程ワクチン事務室の方に確認して吉田委員に直接回答する

という話だったので吉田委員に回答している。前回の会議でも、柄山の上の林道や別所川の関係も質問された委員に直接回答するということでお返ししている。今後は情報共有という意味でお返しした内容をお伝えしたい。

【植木節子委員】

防災無線の件もあったと思うので、今後も共有して欲しい。

【高波次長】

今後、この地域協議会の中で話をするものか、その区分もあるかと思うので、これは地域協議会の委員の皆さんで是非共有した方が良いという案件については次の会でお話しさせていただくということにさせていただきたい。また急ぎの件もあると思うので事案によっては至急対応して、皆さんに紙でお配りするという場面もあるかと思うので色々対応を考えていきたい。

【平井達夫会長】

総合事務所の仕切りの報告も求める。

【高波次長】

お見込のとおりコロナ対策である。我々も1フロアだけで、2階もガス水道局が居るが、いわゆる総合事務所としてフロアに50人居る訳である。人事課等々とも話をして最初1階と2階で分けようと話も進んだが、色々な面が絡み、取りあえず出来ることということで3区画にあえて区切った。文化祭等で使う展示パネルを代用したため見通しが悪くなっているが、人事課が保健所の指導を受け、その指導を元にアドバイスをいただきながら実際上と下が空いている。換気的面、空気の流れの面で専門的な知見の中からああいう感じの作りにした。どこかの1人が出た場合、1フロアの相当数が事務に携われないという話になるので、3区画区切った中でどこか1つで出ても2つは生き残るという方策である。暗いという話もあるのかも知れないが、コロナ対策という事でご理解をいただきたい。

【長藤豊委員】

質問と回答の件で、この場で質問しようと思っている場合は会議の前に口頭でも良いので事前に質問を流しておく、事務局あるいは総合事務所側でも答えをもってこの場に臨めると思うので、なるべく話を早くするためにも前もって質問

を投げかけておいて協議会に臨むという形にしたほうが良いと思う。我々協議会委員も心掛けた方が良くと思う。

【下鳥治委員】

川瀬所長にお願いがある。今言ったように植木委員のように対応が遅いのではないとか、色々な話が出ているがもう年の暮れに来て年度末という形もすぐ来る。いま冒頭の挨拶の中にここへきて9ヶ月経ったという話もある。だいぶ区内には慣れてきていると思う。上越の市政あるいは板倉区内の問題、町内会長連絡協議会の内容もそうだと思うが次年度は大きく変わってくると思う。自主的審議もこれから3つの問題について審議していかななくてはならない。かつ、また私がいつも言っているように板倉区内にはどんな観光があるかというようなこともまだまだ把握されていない様な状態ではないかと私は感じている。これは私からのお願いだが職員の中にこの今の案件について専門的に勉強、取りまとめあるいは色々な観光関係の団体を一元化して、そういう職員を設置できるような状態が私は欲しいと思うがその辺はいかがか。

【川瀬所長】

観光については産業グループで産業観光班という班がある。自主的審議事項のテーマで板倉の各種団体が連携した地域活性化についてということになっているが、私は地域活性化というのはある意味観光と地域活性化は切っても切り離せないと思っている。光ヶ原高原の件で今年各種団体と話をさせていただいた。この中で、光ヶ原高原ファン倶楽部という団体があって、板倉まちづくり振興会が入っていたりとか、ゑしんの里観光公社が入っていたり色々な団体が入っているので、どこが音頭を取るのかというのはまた次の話かもしれないが、色々話が出来る環境というのが整ってきているのかなと思っている。逆にいうと今回光ヶ原高原の話で、職員に、これは光ヶ原高原で終わらせないという話をしている。というのは光ヶ原高原も観光施設の1つだが、他にも観光施設はある。私らも知らない所もあるし逆に知っている方からどういう物があるのか教えていただいて、それを皆さんと知恵を出し合って、どう発信していくのか、そういうのを是非地域の皆さんと話をしていきたい。誰がどうやるのか腹を割って話し合って、マイナスの話ではなくて、皆さんしっかりやったださっているのです、やってることは

やっている事としてお互い認めて、自分が出来ないことを補い合うような形でこの区の各種団体が連携してやっていただければと思っている。その中で総合事務所には専門の部署というのが地域振興であれば地域振興班というのがあるし、観光であれば産業観光班というのがある。今私共がその中で、お互いに話をしながらやっている。その形が皆さんにはなかなか見えていないのかなと思う。見えていないのが私どもが反省するところだと思うので、活動を見ていただき、ちょっと違うんじゃないかとか、こういう形はこういう形で良いんじゃないかとかご意見をいただきたいと思うので、そういう形の中で取り組んでいきたい。そういう中で今、下鳥委員の話を職員もどのように受け止めて聞いてくれたかなと思っている。また来年一生懸命取り組んでいきたいと思うので、皆さんからのご協力をいただきたい。

【下鳥治委員】

非常に楽しみにしているので宜しくお願いしたい。

【庄山健委員】

今の所長の話で理解した。あと問題は私らがどういう中心になる組織を立ち上げるのか、例えば板倉まちづくり振興会が中心になってくれるというのであればそれで良いし、財源がどうという話になれば地域活動支援事業があればそれを使えばいい。人材も今の若い人に協力してやれば良い。そういう中心になるものが無い。それが一番の問題だと思う。ただ単発で光ヶ原高原の観光をやっても人が来ない。やすらぎ荘と言っても人が来ない。それらを連携して繋げていって一つの観光にするというような認識をもってやらないとダメなので、そういうのを繋げるというか、連携する組織というか、中心となる母体が必要だと思う。是非地域協議会でも皆さんから知恵を出してもらって作り上げていけばいいのかなと思う。

【平井達夫会長】

他にないか。

(意見なし)

- ・会議録の確認を山本委員に依頼

【古川政繁副会長】

- ・挨拶

【高波次長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

板倉区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL0255-78-2141（内線123）

E-mail: itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。